

2014年3月17日

報道関係各位

サムスン電子ジャパン株式会社
早稲田大学エクステンションセンター
株式会社角川アスキー総合研究所

16歳以上対象とした、アプリ開発人材育成総合カリキュラムを開始 アプリ開発人材育成プログラム「Tech Institute™」 早稲田大学エクステンションセンターで募集開始

SAMSUNG ELECTRONICS JAPAN(サムスン電子ジャパン株式会社、本社:東京都港区、代表取締役:方常源、以下、サムスン電子ジャパン)は、サムスン電子がグローバルで展開する社会貢献活動の一環として、日本で若者のアプリ開発人材を育成するプログラム「Tech Institute™」を開始しますので、ここに発表します。

「Tech Institute™」は、サムスン電子ジャパンと早稲田大学エクステンションセンター(本校:東京都新宿区、所長:加藤哲夫、以下、早稲田大学EXセンター)、株式会社角川アスキー総合研究所(本社:東京都文京区、代表取締役社長:角川歴彦、以下、角川アスキー総研)の連携により実施します。

1. 7月より、全65回・130時間のAndroid™用アプリ開発者養成講座を 早稲田大学EXセンター中野校で開講。受講者の募集を3月17日(月)より開始

我々の生活をより便利に、社会をスマートにするアプリのニーズは高まる一方で、その開発人材は不足しており、アプリ開発人材の育成機会・環境も限られています。このような社会ニーズのもと、Android™用アプリの開発者を養成する「Tech Institute™ アプリ開発者養成講座」(以下、本講座)を早稲田大学EXセンター中野校で、サムスン電子ジャパン、角川アスキー総研との提携講座として2014年7月1日より開講します。具体的には、サムスン電子の寄付をもとに、早稲田大学EXセンター監修のもと角川アスキー総研がカリキュラム・教材の開発を行うとともに、第一線の現役開発者による講師陣ネットワークで協力し、運営していきます。

Android™用アプリの入門から応用まで、6ヶ月間(全65回・130時間)に及ぶ夜間(19時~21時)の授業を予定しています。対象者は16歳以上とし、受講料は若者のアプリ開発人材育成・就労支援の観点から16歳~20歳は無料、21歳以上は7万円(詳細条件は別紙「募集要項」参照)としています。定員は50名で、書類審査・面接のうえ選抜します。なお、来年以降は年間100名の育成を計画しています。今回、7月の開講に先立ち、受講者の募集を3月17日(月)より開始します。

2. 実践力を養うオープンセミナー「ビジネス実践講座」も用意

サムスン電子ジャパンと角川アスキー総研では、本講座と並行し、経験豊富で高度な知識を持つ業界のスペシャリストたちをゲストスピーカーに迎え、アプリの最新トレンドやビジネスノウハウ習得、アプリ業界人脈構築などの起業・就労支援を目的としたオープンセミナー「ビジネス実践講座」を開設します。対象者は本講座の受講生のほかに一般参加も募り、6ヶ月間で全6回、計12時間の授業を予定しています。

□運営体制

社名	役割
サムスン電子ジャパン	全体企画、費用負担、開発環境・機材提供 等
早稲田大学EXセンター	「Tech Institute™ アプリ開発者養成講座」の設置、運営
角川アスキー総研	「Tech Institute™ アプリ開発者養成講座」の企画、教材開発、講師協力 「ビジネス実践講座」の企画・運営

□2014年4月新設の早稲田大学EXセンター中野校で講座を開設

中野校概要

早稲田大学 EX センターは、年間約 1500 講座に対し、3 万人超の受講生を擁する早稲田大学の生涯学習機関です。2014 年 4 月、中野国際コミュニティプラザの1 階に早稲田校、八丁堀校に次ぎ 3 校目となる中野校を開校します。ここでは、従来の自由に学べる豊富な講座に加え、武蔵野にゆかりのある小説や演劇、異文化理解など中野校ならではの講座を開講する予定です。

本講座は、ICT・コンテンツ産業の振興を促進している中野地域における、若年層を中心とした新たな取り組みとして期待されています。



JR 中野駅北口「中野四季の都市」の一角に所在

【 本件に関する報道関係からのお問い合わせ 】

サムスン電子ジャパン株式会社

担当 : 後藤 (TEL: 03-6234-2047、Mail: t.goto@samsung.com)

早稲田大学エクステンションセンター

担当 : 野原、山上 (TEL: 03-3208-2248、Mail: wuext@list.waseda.jp)

株式会社角川アスキー総合研究所

担当 : 中西 (TEL: 03-5216-8125、Mail: y-nakanishi@lab-kadokawa.com)

以上

※「Tech Institute」は、日本国内において、サムスン電子ジャパン株式会社の登録申請中の商標です(商願 2014-1188)。

※「Android」は、Google Inc.の商標または登録商標です。

Tech Institute アプリ開発者養成講座(募集要項)

□監修および講師陣代表:

監修 笈 捷彦 (早稲田大学理工学術院教授)

講師代表 嶋 是一 (日本Androidの会 代表)

教材執筆者代表 柴田 文彦 (エンジニアリングライター)

□日程: 2014年7月1日(火)~12月10日(水) 全65回 (時間は19:00~21:00)

* 授業のスケジュールはTech InstituteのWebサイト(<http://techinstitute.jp/>)を参照

□場所: 早稲田大学エクステンションセンター中野校

所在地 〒164-0001 東京都中野区中野4丁目22番3号
早稲田大学中野国際コミュニティプラザ1F

□受講対象者: 1998年4月1日以前に生まれた方(2014年4月1日時点で16歳以上)

□受講条件: Androidアプリ開発に意欲、熱意があり、最後まで継続して学べること

□定員: 50名

□受講料: 1993年4月2日以降に生まれた方は、受講料免除
1993年4月1日以前に生まれた方は、受講料70,000円

□応募・選考:

- | | |
|--------------|-----------------------|
| (1) 応募期間 | 2014年3月17日(月)~5月9日(金) |
| (2) 提出先 | 早稲田大学エクステンションセンター |
| (3) 提出書類 | エントリーシート、作文、企画書 等 |
| (4) 書類選考結果発表 | 2014年5月23日(金) |
| (5) 面接選考 | 2014年5月27日(火)~29日(木) |
| (6) 受講者発表 | 2014年5月30日(金) |

* 応募・選考の詳細は、Tech InstituteのWebサイト(<http://techinstitute.jp/>)を参照

□問い合わせ先:

早稲田大学エクステンションセンター Tech Institute係

電話 : 03-3208-2248 受付時間 : 月~土 9:30~17:00(日曜・祝日・休業日を除く)

E-mail : Tech-appcourse@list.waseda.jp URL : <http://techinstitute.jp/>

Tech Institute アプリ開発者養成講座 講座内容

(1)ファーストステップ(7回)

スマートフォンなどのデバイスを取り巻く状況、OSやデバイスの基礎知識やインターネットとの関係、プログラム言語の概要などAndroidアプリ開発に着手する前に知っておくべき入門知識を学ぶ。具体的には、プログラミング、コンピュータ、ストレージやネットワークに関する基礎知識を理解し、JAVA言語によるプログラミングと開発環境のセットアップによる実践を行う。

【到達目標】

- ・プログラミングの概要を理解している
- ・OSとデバイス、インターネットとの関係を理解している
- ・Androidアプリの開発環境を構築できる。

(2)Androidの仕組み(6回)

Android OSを理解し、AndroidのAPI全般の知識を深めると同時に体感的にアプリ開発を掴んでいくための実践でAndroidの仕組みについて学んでいく。

【到達目標】

- ・APIドキュメントで、クラス・メソッドの仕様を調べることができる。
- ・スマホで動く簡単なプログラムを作成することができる。

(3)基礎編(4回)

UIにおける共通基礎理論とAndroid固有のUI設計のポイントを習得する。

【到達目標】

- ・デバイスに依存しない共通基礎理論を説明できる。
- ・Android固有のUI設計ポイントを説明できる。

(4)ステップアップ編(7回)

スマホアプリの軸となっている「ゲーム」と「ユーティリティ」という2ジャンルにフォーカスしてアプリ開発の実際を学ぶ。

【到達目標】

- ・ゲームコンテンツ制作によりインタラクティブな動作環境を作ることができる。
- ・ユーティリティ制作によりネットワークとの連携した動作環境を作ることができる。

(5) 応用編(31回)

ジャンル別にAndroidアプリのさまざまなテーマに取り組む応用実践編。

【到達目標】

- ・グラフィック、AV、ネットワーク、センサー、APIなどのテーマに則した機能を盛り込んだアプリを作ることができる。

(6) 実習編(6回)

ここまでの過程で学んだ内容のまとめとしての応用演習。公開を前提としたAndroidアプリの企画、設計、開発・制作を実施させる。

【到達目標】

- ・Androidアプリの企画と開発ができる。
- ・制作したAndroidアプリをプレゼンテーションすることができる。

(7) 公開とブラッシュアップ(4回)

アプリ開発のライフサイクルを確認し、公開のためのノウハウを習得する。作成、公開したアプリのレビューを受け、それを反映させる。

【到達目標】

- ・Google Playにアプリを公開することができる。
- ・アプリ開発のライフサイクルを理解し説明できる。

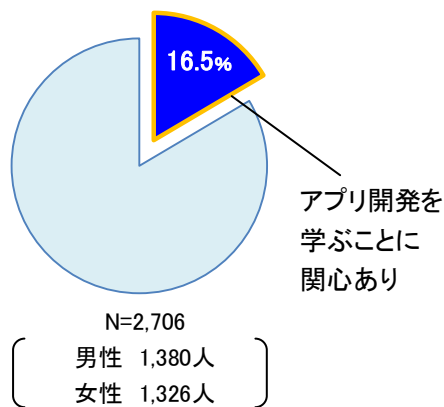
アプリ開発およびアプリ開発講座に関する調査結果

調査概要

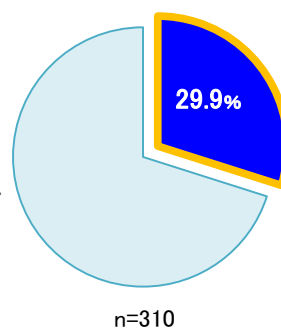
調査方法: Webアンケート
調査時期: 2013年11月下旬
調査対象: 15~34歳男女(インターネット利用者)
サンプル数: 2,706名(ネット利用者の性年代構成等に合わせて補正して集計)
調査実施: サムスン電子ジャパン株式会社、株式会社角川アスキー総合研究所

1. 15~34歳の男女のうち約17%が、アプリ開発講座等への参加意欲あり 特に、15~19歳の男性で約30%の高い関心を持つ

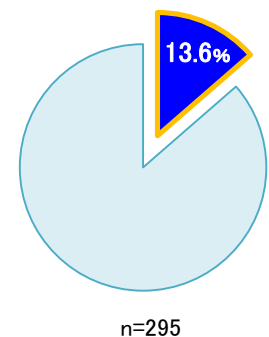
回答者全体(男女15~34歳)



男性 15~19歳



女性 15~19歳

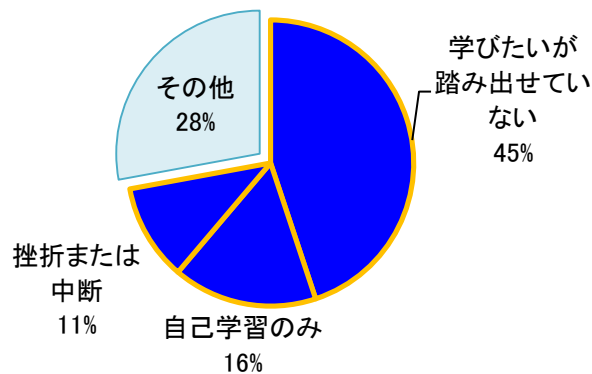


アプリ開発に関する講座やセミナー、勉強会等への参加意向を調べると、回答者全体では、「参加する予定」「今後参加したい」という積極的な層が3.3%、「興味はあるので、できれば参加したい」という層まで合わせると16.5%で、15~34歳男女の6人に1人は、アプリ開発を学ぶことに関心があることがわかりました。とくに若年層でその傾向が強く、10代後半男性では29.9%がアプリ開発を学びたいと考えています。

2. 参加意向のある男女のうち72%が、これまで教育の機会がなく、独学または学習を断念していた

アプリ開発を学ぼうとした経験等

n=677



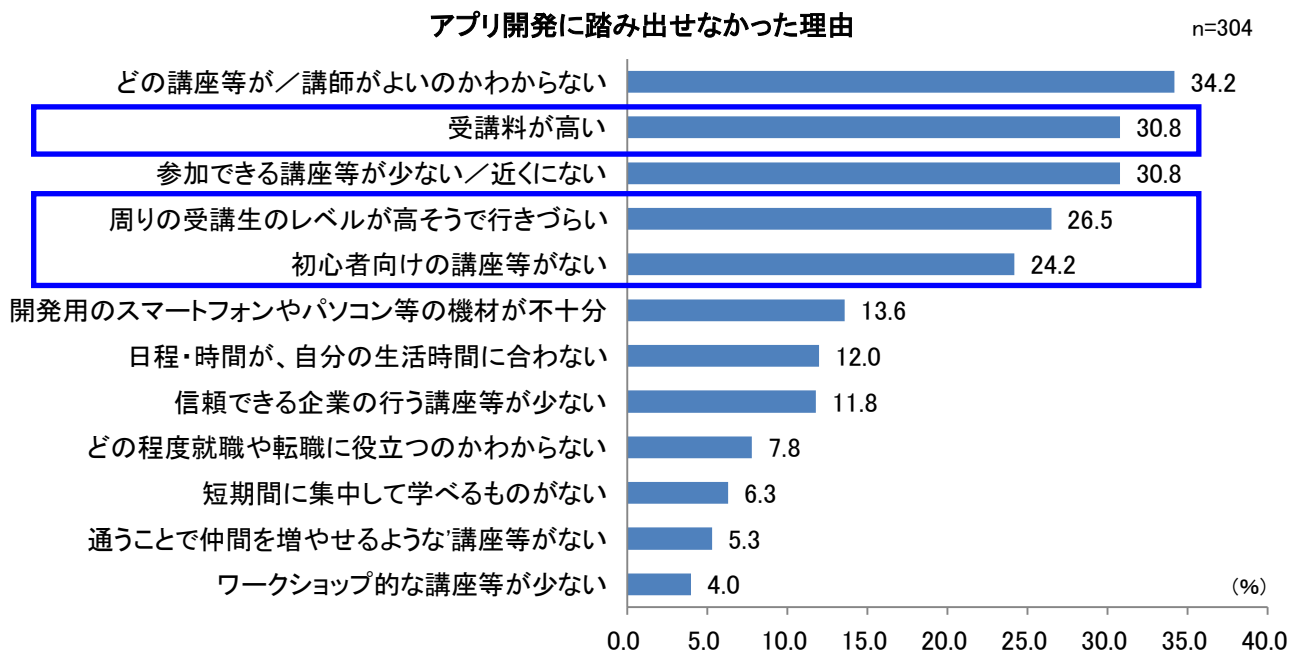
回答者の中から抽出した、アプリ開発やアプリ開発講座の受講に関心の高い層(677人)に、過去のアプリ開発講座への参加経等を聞いたところ、「学びたいが踏み出せていない」45%、「本を読むなど学んだだけ」16%、「学ぼうとしたが、挫折、または中断している」11%と、学習をあきらめている層が72%もいることがわかりました。

3. 「学びたいが踏み出せていない」と回答した45%にその理由を尋ねたところ、

① 受講料が高いため 30%

② 初心者から学べる環境が少ないため 25%

という現状が浮き彫りとなった



アプリ開発やアプリ開発講座の受講に関心の高い層(677人)のうち、これまでは「学びたいが踏み出せていない」と回答した45%(304人)にその理由を聞いたところ(複数回答)、約30%が「受講料が高い」と感じており、また「周りの受講生のレベルが高そう」「初心者向けの講座がない」など、初心者から学べる環境が少ないと感じている人も、4人に1人いることがわかった。